

Emergency



Watch

No.57 Sep. 2015



神戸こども初期急病センター

2015年8月受診者数：2186人

【訴え】

1. 発熱 : 1341人 (993人)
2. 咳嗽 : 690人 (170人)
3. 嘔吐 : 401人 (156人)
4. 鼻汁 : 399人 (9人)
5. 発疹 : 359人 (238人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

【疾患頻度】

1. 急性上気道炎・咽頭炎 : 664人
2. 感染性胃腸炎 : 294人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 186人
4. 手足口病 : 154人
5. 感冒 : 124人

楽しい夏休みも終わり、新学期が始まりました。この夏休み期間中、8月の神戸こども初期急病センターへの受診者数は2,186人でした。受診理由としてはやはり発熱が多く、933人でした。この夏は昨年よりも多くの方が受診されましたが、手足口病やプール熱、ヘルパンギーナなどのいわゆる「夏かせ」が流行したためと考えられます。夏が終わり秋から冬になりますと、喘息や胃腸かせ、インフルエンザなどの季節がやってきます。みなさま引き続き手洗い、うがいを励行してください。

さて、今回は「外傷」をとりあげます。神戸こども初期急病センターは内科診療（発熱や咳など）が対象なので外傷は対象ではありませんが、これからの運動会の季節、転んで血が出たりすることがあると思いますので簡単にご説明します。ただし、血が止まらない、犬や猫などにかまれた、野外で大きな傷、古い釘や鉄条網によるけがの場合は、破傷風などの感染症の危険がありますので、かならず医療機関を受診してください（夜間などでしたら小児救急電話相談#8000で対応できる外科病院をお尋ねください）。

最近、運動場などで転んだ場合などの軽い傷の手当は、「湿潤療法」が良いと言われています。湿潤療法は①傷口を洗浄すること、②異物を取り除くこと、③傷口の湿潤を保つことが基本です。まずは止血をし、血が止まったら傷口に水道水を流して洗います。その際に、「かさぶた」なども、ていねいに取るようにします。小さい砂なども確実に取り除いてください。石鹸は不要ですが、土や泥で汚れている場合は使用します。そして最後に創傷被覆材で覆います。創傷被覆材は薬局などで販売されています。傷口がしっかり上皮化するまではガーゼなどは使用しないようにします。消毒剤は不要です。このような湿潤療法は、従来の乾燥させる治療よりも傷が早く治り、傷跡も残りにくいと言われています。

昔は転んだりして血が出ると、親に「赤チンぬっとけ」と言われていたものです。この「赤チン」は「赤いヨードチンキ」の略です。赤チンはメルブロミンという局所殺菌剤で、有機水銀二ナトリウム塩化合物です。赤チンはかつて日本をはじめ世界中で使われていましたが、製造途中で水銀が発生すること、米国政府機関によりその効果が「未検証である」と判定されたため、先進国の多くで使われなくなりました。しかし、この水銀は皮膚の浸透率が低いので、赤チンを外傷消毒薬として使う限り安全とされています。また、価格が安いので途上国などでは現在も重要な消毒薬として活躍しています。東京や大阪の会社では現在も生産が続けられており、日本国内でも手に入れることができます。

